

大麦栽培特報 第4号

平成27年4月7日
 いなば農業技術者協議会
 ○事務局【JAいなば営農生産課】
 小矢部市赤倉97 67-8000
 【西部支店】67-8200 【東部支店】67-8300
 【南部支店】61-8900 【福岡支店】64-8600
 ○高岡農林振興センター 26-8480

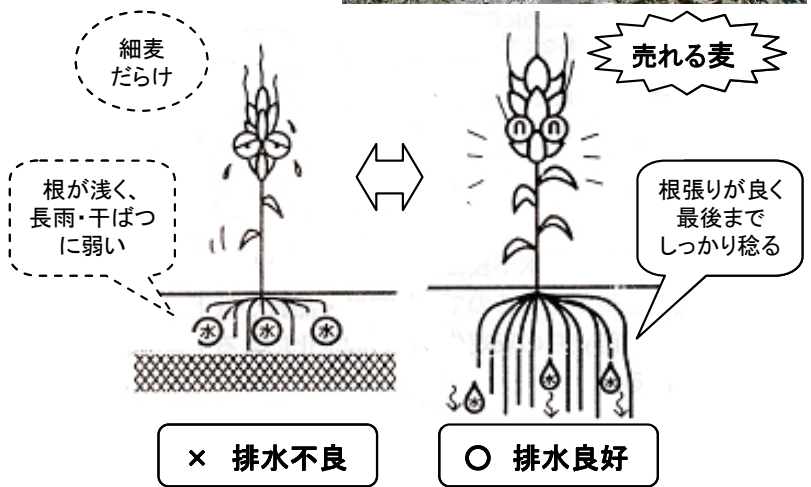
1. 現在の生育状況 (3/27 調査より)

- 生育は、近年より草丈は短め、莖数は少なめに推移しています。
 (予想される出穂期：4月17～26日)
- 雨水が株元にたまり湿害が生じ、莖数不足が生じているほ場も見られます。



2. 今後の管理

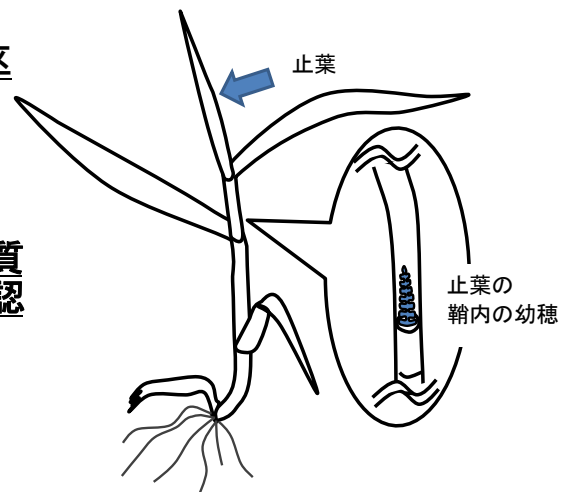
- 今後、地上部の生育量が大きくなる時期となり、根の生長も盛んになります。
 根の発育、機能を確保するため、**排水対策を徹底し、莖数の確保と充実した稔りを迎えましょう。**
 今一度、排水溝の確認、手直し、深く掘下げた排水口への連結をお願いします。



3. 止葉展開期追肥 (分施肥系の場合)

- 分施肥系を行っている、北蟹谷、東蟹谷地区等は、圃場により生育が異なるので、追肥は4月12～14日頃に、5～10kg/10aを施用してください。

※追肥の時期が適期(止葉展開期)でないと、品質低下をまねきますので、ほ場で止葉の状態を確認してから、追肥を行ってください。



※止葉展開期とは？
 止葉が完全に展開した茎が、全体の40～50%となった時期です。

葉色・葉色版 (SPAD)	硫安施用量 (Kg/10a) ()は窒素分量	
5未満 (45未満)	10	(2)
5以上 (45以上)	5	(1)

※ 基肥一発肥料の場合は、止葉展開期追肥は施用しない。
 ただし、葉色が淡いようなら営農指導員にご相談ください。